問 担い手・集落営農への取り組みは
答 育成方法を検討している

秋田美喜雄議員

問 食料農業農村基本計画による事業が19年度から実施される。担い手・集落営農を中心とした政策に大きく変わる。

県西部には官民一体で支援していく研究会が発足した。

本町の取り組みと、集落への情報提供は。

答 （山口町長）

米や大豆など品目ごとの助成は平成19年度以後一定条件を備えた認定農業者や農業集落営農組織等担い手を対象にし限定される。

町は今年度「大山町地域担い手育成総合支援協議会」を設立した。

会員の農協、普及所、農業委員会と連携を取りながら、助成対象者となる担い手の育成方法を検討している。

集落営農を立ち上げる説明会を開く。

問 食農・食育の課題は
答 家庭・地域・学校の分担が大切

問 飽食の時代、食が乱れ、感謝の心が薄れ、安全・マナー等についてメディアが取り上げている。

小中学校の食農・食育の現状、課題、今後のあり方は。

答 （山田教育長）

学校では、家庭科・給食の時間をとおし、マナー・栄養・食事とはなにかを指導している。

飽食の時代も含めて家庭でも不規則となり偏食が多い。

このような現状をとらえ、学校教育目標の知育・徳育・体育に加え、4つ目に食育の問題が提起されている。

福祉保健課とも連携をし食育に取り組んでいる。

大山町子ども健康会議を設置し、食生活の改善に多くの人の力を得て取り組んでいる。

食農は学校教育だけでは基本的に無理であり、家庭教育、地域社会が分担しながら、次世代を担う子ども達が、食べ物・食生活・農業農村について正しい理解を深めることが大切だと思っている。

交通安全

岩井美保子議員

問 小学1年の女子児童を狙った事件が続けて2件もあった。

(1)安全確保のための行動計画は。

(2)地域情報通信基盤整備事業を役立てることはできないか。

(3)通学路安全のためのスクールバスの使用に配慮を。

問 通学路は大丈夫か
答 安全確保は町ぐるみで

答 （山口町長）

(1)子ども達が安全安心に暮らせる町づくりは非常に重要な課題だ。対策については教育委員会を中心に様々な団体の皆さんとパトロールや安全活動、さらには通学路の点検なども行っている。

(2)地域情報通信基盤整備事業を安全対策に組み込むことは技術的には可能である。

映像監視カメラの導入、それの監視体制、監視システムが考えられるが電波が届かない場所もある。総合的に検討するとロスの多いシステムになる。

(3)全員をスクールバスで送迎できるかという課題もある。

学校の行き帰りだけではない子どもの安全を考えていかなければならない。

問 「保健福祉センターなわ」の駐車場の道端にイチョウの木があるため、見通しが悪くとても危険だとの声がある。取り除くことはできないか。

また、保健福祉センターから役場本庁舎へ通じる町道の拡幅計画はないか。

答 （山口町長）

平成11年に保健福祉センターが建設された時、このイチョウの木を切るか残すかが問題となり、御来屋南区の方と協議の結果残すことになった経緯がある。

この町道の拡幅計画は、必要性は感じているので今後財政的な状況も踏まえながら検討する。

カーブに立つイチョウの木